

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社大塚台夕月		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	宮崎県宮崎市大塚台西3丁目2番地2 (電話) 0985-47-2280		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 9年1月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤6人, 非常勤4人,	常勤換算5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月27日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85歳	最低	69歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおつか生協クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角にグループホーム野の花がある。「家庭的な環境の中で、地域住民と交流しながら暮らし続けていく」に加え「地域の方達の為に」との思いを持ち理念が作り上げられている。旬の食材や新鮮な物を取り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえ、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じ物を楽しみながら食べている姿がある。栄養の過不足や偏りをなくするため、管理者が相談しやすい栄養士から定期的な指導を受ける等、栄養バランスには細心の注意が払われている。一人ひとりの嗜好を把握し、旬の食材を用いた献立を取り入れ、本人の食生活をさまざまな面から支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を職員で話し合い、改善がなされた項目や取り組み中の項目もある。今後は改善計画シートを活用し、目標を定めた取り組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は関係する項目をそれぞれの職員が分担して作成したが、職員で話し合われた内容を記録として残すことをお願いしたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、認知症への理解やホームの取り組みが報告され、また、地域での防災訓練等の参加について話し合われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	身体に関する事については看護師が随時情報提供を行っている。暮らしぶりについては、来訪時および電話にて伝えているも、口頭による情報提供にとどまっている。しかし、話しやすい雰囲気を作り、来訪時にも積極的に声をかけ運営に対する意見を求めている姿勢はある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の避難訓練や敬老会の行事に参加している。子供会や児童館からの来訪もあり、一緒にゲームをしたり贈り物のやり取りをする等、微笑ましい地域との交流がある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の中で、地域住民と交流しながら暮らし続けていく」に加え「地域の方達の為に」との思いを持ち理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や室内にホームの理念は掲げてあるが、実践が理念に基づいたものであるかどうかの職員間の話し合いや確認が行われておらず、共有されていない。	○	理念について、話し合いの機会を職員間で持ち、日々のケアでも理念を意識した取り組みが実践される事を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の避難訓練や敬老会の行事に参加している。子供会や児童館からの来訪もあり、一緒にゲームをしたり贈り物の交換をする等、微笑ましい地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員で話し合い、改善がなされた項目や取り組み中の項目もある。	○	改善計画シートを作成し、目標を定めた取り組みをを期待したい。 また、今回の自己評価は関係する項目をそれぞれの職員が分担して作成したが、職員で話し合われた内容を記録として残すことをお願いしたい。

宮崎県宮崎市 グループホーム野の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、認知症への理解やホームの取り組みが報告され、また、地域での防災訓練等の参加について話し合われている。	○	運営推進会議にて自己評価の説明や、外部評価の結果を公表してもらいたい。運営推進会議と評価を結びつけた、質の確保を図ってもらいたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮崎市のグループホーム担当者（介護長寿課）との連携を図るべく電話等での相談をしているとのことだが、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えるまでには至っていない。	○	市町村担当者に対し事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作ってもらいたい。地域密着型サービスとして、これを機に積極的な連携が図られることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体に関することについては看護師が随時情報提供を行っている。暮らしぶりについては、来訪時および電話にて伝えているも口頭による情報提供ににとどまっている。	○	利用者のホームでの暮らしぶりやエピソード等を口頭報告だけではなく、ホーム便りの発行や個別の手紙、写真など、報告される事を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気を作り、来訪時にも積極的に声をかけ運営に対する意見を求めていこうとする姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設2年目であるが、退職者はいない。家庭の事情により休職している職員はいるが、いつ復帰してもよい体制がある。職員の入れ代わりがなく、なじみの職員が介護に携わるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加をしている。研修参加希望者は自主的に参加できるような体制もある。復命報告（研修報告会：職員会議兼ねる）も毎月行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にあるグループホームへの見学や訪問を行い交流を図っている。また、相談や話し合いの場を設け事業所外の人材の意見や経験をケアに生かそうとする姿勢がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から現状を確認し、入居前に本人に遊び（見学）に来てもらう等の取り組みが行われている。本人が徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が共に暮らし、支援する側、される側にとらわれない関係が構築されている。何気なく出た本人の言葉や、人生の先輩としての教えを謙虚に受け止めている姿がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどこで何をしたいのか、どうしたいのかを時間をかけ理解しようとしている。無理強いをせず本人の意向や希望を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービスの介助項目を羅列した介護計画となっている。利用者の視点にたった地域で暮らし続けるための項目が含まれていない。	○	地域で本人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画となることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果等を評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じた見直しが定期と随時に行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、往診支援、理美容支援が行われている。本人、家族の希望時は入居前に泊り利用も可能である。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が同意し納得したかかりつけ医となっている。受診や通院は家族主体ではあるが、本人や家族の希望に配慮した支援となっている。病院で開催されるカンファレンスにも積極的に参加し、病院との良好な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う看取り希望同意書（家族の意思確認書）は取得している。看取り期にあった利用者について、方針を共有するためのカンファレンスが開催されたとのことだが記録に残されておらず、看取りプランも作成されていない。	○	カンファレンスの内容は議事録に残すと共に、利用者や家族の状況変化に応じ、同意書を取り直すなどの対応を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員会議の中で守秘義務があることを口頭で徹底して伝えているも、職員個人の認識に任せてしまっている現状がある。	○	地域密着型サービスは地域に開かれ、地域に密着しつつも対人サービスに携わる者として、注意深く扱うべきプライバシーの保護の徹底や個人情報漏えい防止が責務となっている。日常的な確認と改善に向けたホーム全体での取り組みが建設的に行われることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者の希望に沿うことを心がけたケアを提供している。自由な暮らしを実現するために、本人、家族の意向はもちろんのこと、個別性のある支援を行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム野の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な物を取り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえ、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じ物を楽しみながら食べている姿がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本とし、毎日入浴を希望される利用者に対しては随時入浴できる体制がある。利用者状況に合わせ足浴や手浴も対応している。入浴拒否する利用者に対しては、声かけの工夫をする等、無理強いをしない本人の意向を踏まえた職員の姿がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、利用者が好むこと、得意なことができる環境づくりに配慮している。生花が絶えずあるホームには、花を生ける利用者の生き生きとした姿がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	これまで通りの暮らしを実現するために、外出支援を積極的に行っている。季節の移り変わりを肌で感じてもらい、心身の活性につながる取り組みとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はない。玄関も常時開放しており、鍵をかけることに対する弊害を、毎月の職員会議で話し合っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム野の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームにおいて、今年度は上半期一度も災害を想定した実践的な訓練が行われていない。	○	自治会でボランティア災害協力班ができていることから、協力を得られやすい環境はある。実際の避難訓練、避難経路の確認、ホーム内に設置された消火器の使い方等の訓練が定期的に行われることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の過不足や偏りをなくすため、管理者が相談しやすい栄養士から定期的な指導を受ける等、栄養バランスには細心の注意を払っている。一人ひとりの嗜好を把握し、旬の食材を用いた献立を取り入れ、本人の食生活をさまざまな面から支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすい空間となるよう細部に渡って配慮されている。家庭でも使っていた品々が共用空間の中に溶け込んでおり、不快なおいや音もなく、季節を感じることでできる温かな光に包まれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使いなじんできた机やいすが持ち込まれ、利用者の生活スタイルに合わせた居室となっている。		

※  は、重点項目。